

## 平成 18 年度第 2 回評議員会議事録

1. 日 時 平成 19 年 3 月 18 日 (日) 10:30 ~ 15:00

2. 場 所 パシフィコ横浜 アネックスホール 2 階 F201

3. 出席評議員 (順不同・敬称略):

(加盟団体) 北海道セーリング連盟: 浜田賢、青森県セーリング連盟: 豊田文雄 (委)、岩手県ヨット連盟: 長塚奉司、宮城県セーリング連盟: 庄司一夫、秋田県セーリング連盟: 佐藤利秋 (委)、山形県セーリング連盟: 齋藤和久、福島県セーリング連盟: 広田喜世人、外洋北海道: 小澤貢一、外洋津軽海峡: 木立正博、外洋いわき: 織田好孝、茨城県セーリング連盟: 朝田耕平、群馬県セーリング連盟: 中川淳 (委)、埼玉県セーリング連盟: 谷正安 (委)、千葉県セーリング連盟: 斉藤威、東京都ヨット連盟: 鈴木修、神奈川セーリング連盟: 須藤尊史、山梨県セーリング連盟: 羽田定造、新潟県セーリング連盟: 野崎喜一郎、長野県セーリング連盟: 横山真、NPO 静岡県セーリング連盟: 中嶋浩二郎、外洋東京湾: 福田義一 (委)、外洋三崎: 川久保史朗、外洋三浦: 藤田亨、外洋湘南: 浪川宏、外洋東関東: 横田光夫、外洋駿河湾: 山田良昭、愛知県ヨット連盟: 森信和、三重県ヨット連盟: 横田昌訓、岐阜県ヨット連盟: 伊藤和典、外洋東海: 坂谷定生 (委)、富山県セーリング連盟: 番匠茂、石川県セーリング連盟: 石倉喜八朗、福井県セーリング連盟: 高間博之 (委)、滋賀県セーリング連盟: 山田将人 (委)、京都府セーリング連盟: 宮田毅志 (委)、外洋近北: 行田勝之、大阪府ヨットセーリング連盟: 岩崎洋一、兵庫県セーリング連盟: 川上宏、奈良県セーリング連盟: 安澤厚男、和歌山県セーリング連盟: 山本嘉一 (委)、外洋内海: 妹尾達樹、鳥取県セーリング連盟: 善波周、NPO 岡山県セーリング連盟: 別府誠、(財) 広島県ヨット連盟: 赤羽根慶仁、(社) 山口県セーリング連盟: 藤岡悞 (委)、外洋西内海: 金井寿雄、香川県ヨット連盟: 齋藤修、愛媛県セーリング連盟: 黒川重男、高知県セーリング連盟: 文野順夫、福岡県セーリング連盟: 岩瀬広志 (委)、佐賀県ヨット連盟: 松山和興 (委)、長崎県セーリング連盟: 最上修、熊本県セーリング連盟: 本田肇、宮崎県セーリング連盟: 後藤眞宏 (委)、鹿児島県セーリング連盟: 林雅一、沖縄県セーリング連盟: 有銘兼一、外洋玄海: 高木政一 (委)、外洋南九州: 剥岩政次 (委) (特別加盟団体) 全日本学生ヨット連盟: 杉山嘉尚、(社) 日本ジュニアヨットクラブ連盟: 中根健二郎、全日本実業団ヨット連盟: 外尾竜一、全日本自治体職員ヨット連盟: 小宮三雄、日本ヨットクラブ連盟: 中瀬昭、日本レーザークラス協会: 木村治愛、日本ウィンドサーフィン連盟: 千葉貴生 (委)、日本シーホース協会: 蛭子井貴、日本 FJ 協会: 古屋勇人、日本テザー協会: 金子文雄、日本ドラゴン協会: 國井重人 (委)、東京ヨットクラブ: 平生進一 (委)、(社) 関西ヨットクラブ: 大倉俊 (委)、北海道外洋帆走協会: 石川彰 (委)、葉山マリーナヨットクラブ: 田中一美、福岡ヨットクラブ: 白石元英、(社) 江ノ島ヨットクラブ: 松本真也 (委)、シーボニアヨットクラブ: 蒲谷和行、徳島ヨットクラブ: 瀬川洗城、日本ヨットマッチレース協会: 伊藝徳雄 (委)、NPO ヨットエイドジャパン: 永松馨介、日本視覚障害

者セーリング協会：日高茂樹、日本ミニトン協会：山田忠雄、日本 Melges24 協会：小畑千安紀、日本 J24 協会：畠山知己（委）、外洋学識経験者：高木伸学

以上、出席 84 名（内、委任状出席 24 名）

欠席評議員：（加盟団体）栃木県セーリング連盟：森谷茲允、島根県ヨット連盟：大西和彦、徳島県ヨット連盟：石井良直、大分県セーリング連盟：後藤督、（財）全国高等学校体育連盟ヨット専門部：澁谷有人、日本 470 協会：五味克博、日本シーホッパー協会：山近雅彦、日本スナイプ協会：澤村治男、日本 OP 協会：国見悦朗、日本 49er クラス協会：高野学、淡輪ヨットクラブ：太平洋和、大阪北港ヨットクラブ：吉田敬一

以上、欠席 12 名

#### （その他出席者）

会長：山崎達光、副会長：河野博文、専務理事：昇隆夫、常務理事：前田彰一、理事：青山篤、稲葉文則、大庭秀夫、棚橋善克、伊藤宏、篠田陽史、猪上忠彦、馬場正彦、外山昌一、名方俊介

監事：一條實昭、貝道和昭 顧問：米澤一、小田切満寿雄

委員会：中山明総務委員長、鈴木保夫会計委員長、川北達也ルール委員長、末木創造ワンデザイン計測委員長、倭千鶴子レディース委員長、古川保夫外洋統括委員長、水谷益彦普及委員長、浅野英武外洋統括委員会委員長補佐、豊崎謙広報委員会委員、秋山雄治、古屋静男、小山利男、中村公俊、長田美香子、山田敏雄、小山泰彦、児玉萬平、小林昇、松原宏之

以上、その他出席 37 名

#### 4. 議題事項

- 1) 平成 18 年度第 2 次補正予算（案）
- 2) 平成 19 年度事業計画（案）
- 3) 平成 19 年度予算（案）
- 4) 理事の交代について
- 5) その他

#### 5. 議事の経過および結果

（定足数の確認）

評議員 96 名中、出席 84 名（内委任状 24 名）で、寄附行為第 34 条 5 項に基づく定足数を充たしており、本会は成立した。

（議長の選出及び議長の開会宣言）

寄附行為 34 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は鈴木修評議員に決定し、平成 18 年度第 2 回評議員会の開催を宣言があった。

( 議事録署名人の任命 )

本会の議事録署名人は議長指名により、庄司一夫、妹尾達樹の両評議員が任命され、承認された。

( 山崎会長挨拶 ) メンバー減少による会費収入減、また賛助会費収入減少による一般会計の財政逼迫は長年の課題である。まずは一般会計の財政問題の健全化として、マリナなどへ賛助会員募集をする。一昨年 OP 級選手権における問題となったスポーツマシッパならびにグットマナーについては、長時間の議論を費やした。ナショナルトレーニングセンターが和歌山県に決定した。2007 年プレオリンピック、2008 年北京オリンピック、国体や各艇種別クラス全日本選手権から、アメリカズカップへのチャレンジまでを視野において、マリンスポーツの振興をはかり、セーリング人口の増加をしたい。2016 年オリンピックに東京都が立候補したが、セーリング競技会場について「東京オリンピック招致委員会」を JSAF 内に組織し、最適の場所を提案するため準備をすすめる。外洋ヨットレースの普及において、IRC レーティングの導入、クラブ対抗レースなど水域密着型のレースを開催し、拡大を推進していただきたい。ISAF100 周年・JSAF75 周年による世界中のヨットを浮かべるイベントによる普及活動を全力ですすめる。

本評議員会におきまして重要案件等の審議をお願いしたい旨、挨拶があった。

#### 議題 1 ) 平成 18 年度第 2 次補正予算 ( 案 )

鈴木会計委員長から資料に基づき、平成 18 年度第 2 次補正予算 ( 案 ) について説明があった。募金・寄付金収入が第 1 次補正予算と大きく変わったため、第 2 次補正予算を作成することとした。

##### 一般会計

収入については、日建レンタコムより 1,500 万円の協賛金を頂いたため、協賛金収入を増額した。免税募金収入も増えたため、繰入金収入を 1,659,000 円増額した。結果、当期収入合計は 16,659,000 円増額の 146,309,000 円となった。

支出について、日建レンタコムの協賛金事業に連動して大会講習会費を 1,500 万円の増額とした。弁護士費用及び外洋計測における ORCAN との清算費用が発生したため、雑費を 200 万円増額して 2,555,000 円とした。会計士等報酬についても 50 万円増額した。結果、当期支出合計は 1,750 万円増額の 160,304,947 円となった。当期収支差額が 841,000 円増えて 13,995,947 円の赤字となり、次期繰越額は 4,231,451 円となった。

#### オリンピック特別会計

収入については、補助金等収入 4,445,000 円、負担金収入 10,580,272 円、募金・寄付金収入 2,652,390 円の合計 17,677,473 円が増え、免税募金から繰入金収入 9,193,326 円減となり、当期収入合計は 109,903,094 円となった。

支出については、事業費 5,259,367 円の増額、管理費が 622,819 円の減額となり、計 4,636,548 円増額となり、予備費支出を除いた支出合計は 99,080,548 円となった。当期収支差額は 3,847,599 円となり、次期繰越金額は 17,273,451 円となった。

#### 免税募金会計

当期収入は 11,361,520 円増の 45,898,520 円、当期支出は収入に連動して増額となり 48,348,520 円となったとの発言があった。

同意を得た。

#### 議題 2) 平成 19 年度事業計画 (案)

昇専務理事から資料に基づき、平成 19 年度事業計画 (案) について説明があった。

2008 年北京オリンピック上位入賞の目的を達成するため、セーリング人口の増大が大切である。以下に重点項目を挙げる。全国セーリング拠点 (ヨットハーバー、マリーナ) の指定管理者制度導入に積極的に取組み、活動本拠の充実を図る。平成 20 年大分国体より少年男子、同女子種目に中学生 3 年生の導入が決定したことに伴い、ジュニアヨットクラブ活動の充実に取り組む。合わせて入門艇である OP 級の普及にも昨年同様取り組む。平成 20 年度におけるセーリング競技ナショナル・トレーニングセンターの実現に向けて、JOC 及び文部科学省に対して働きかけを行う。19 年度に行われる各種目の世界選手権において北京オリンピックの出場権を獲得する。各地のヨットクラブの活性化を促すために外洋艇によるクラブ対抗レースを推進する。また、すでに行われている琵琶湖におけるディンギー 3 クラブ対抗レース等のディンギー系クラブ対抗レースの充実化も推進する。引き続き、環境キャンペーンを行うとともに、ISAF100 周年、JSAF75 周年の記念イベントを実施するとの発言があった。

広島県ヨット連盟の赤羽根評議員から、広島県においても指定管理者制度導入に積極的な取組みを考慮しているとの発言があった。

同意を得た。

#### 議題 3) 平成 19 年度予算 (案)

鈴木会計委員長から資料に基づき、平成 19 年度予算 (案) について説明があった。

平成 19 年度予算（案）作成にあたって、各委員会の予算要求を取り纏めたところ、収支差額が 22,843,000 円の赤字となった。平成 18 年度は 17 年度の繰越金があったため、約 1,300 万円の赤字予算作成が可能だったが、18 年度からの繰越金が 400 万円以下となることが予測されるため、当期収支をマイナスにしないことを目標とし、平成 18 年度の実績を基に収入・支出を厳しく見直した。また、19 年度は環境の寄付金を、スポンサーを考慮して用途が明白になるようにするため特別会計とした。

#### 一般会計

収入については、賛助会費は 18 年度の実績を考慮して 550 万円の減額とした。加盟団体負担金は、18 年度のメンバー登録が前年度に比べ約 1,000 人減っているが、19 年度は会員の増員に努力することとし 200 万円増の 5,100 万円とした。協賛金はゼロとした。免税募金繰入金収入は免税募金特別会計から 582,000 円、環境特別会計から 500,000 円の合計 1,082,000 円とした。オリンピック特別会計からの繰入金は基金事務手数料の 500 万円と広告負担金（18 年度は J-Sailing 広告料）10,945,000 円の合計 15,945,000 円とした。広報委員会収入は広告料収入 120 万円、ホームページ広告料として計 140 万円を計上した。総合賠償責任保険は今年度より、外洋加盟団体にも保険料を負担していただくこととし、250 万円計上した。ルールブック販売収入は 100 万円とした。その他委員会の事業収入は、委員会要求案とほぼ同一とした。結果収入合計は 128,387,000 円となった。

支出については、管理費支出を 18 年度の実績を基に削減した。忘年会新年会の支出については、収支をさらにプラスにすることとし、支出をゼロ計上とした。事業開発委員会についてはカレンダー制作費 18 年度の実績に合わせ、60 万円減額した。その他の委員会事業についても 18 年度の実績も考慮し、さらに支出を減らすため交通費、会議費等を中心に削減した。オリンピック特別会計への繰入金支出は 10,945,000 円とした。予備費を大幅に減らし 100 万円としたが、支出合計で 131,387,000 円となった。結果、当期収支が 300 万円の赤字となる予算（案）を作成した。

#### オリンピック特別会計

収入については、18 年度予算に対して事業収入 550 万円の増額、負担金収入 300 万円の減額、募金・寄付金収入 1,699,390 円の増額、繰入金収入は 10,969,273 円の減額とした結果、18 年度に対して差引 6,769,883 円の減額となり、収入合計は 94,649,064 円となった。

支出については、事業活動支出は 13,626,200 円の増額とし、支出計では 108,070,200 円となり、当期収支差額では 13,421,136 円の赤字予算となった。

#### 免税募金特別会計

収入は 18 年度に対して 16,538,480 円の減額で 17,998,520 円、支出は 18,988,480

円減額の 17,998,520 円となったとの発言があった。

環境委員会特別会計

収入 441 万円、支出は全日本の補助金 200 万円、一般会計への繰入金 50 万円を含めて 410 万円とし、次期繰越金は 31 万円となった。

同意を得た。

#### **議題 4 ) 理事の交代について**

鈴木議長から、寄付行為 18 条より、以下の次期選出理事 27 名・監事 3 名の選任をお願いしたい旨、発言があった。会長候補理事 1 名（山崎達光） 全国区選挙理事 8 名（前田彰一、長田美香子、山田敏雄、小山泰彦、児玉萬平、小林昇、安藤淳、松原宏之）、水域推薦理事 12 名（庄司一夫、小山利男、柴沼克己、中山明、宮崎史康、中村公俊、奥村文浩、名方俊介、豊伸吾、外山昌一、都築勝利、猪上忠彦） 会長推薦理事 6 名（河野博文、秋山雄治、古川保夫、青山篤、古屋静男、倭千鶴子） 選挙監事 3 名（貝道和昭、高木伸学、浪川宏）。

満場一致で選任された。

鈴木議長から、次期会長（次期会長候補は、選挙により現評議員の推薦がなされている）・副会長・専務理事・常務理事を選出するため、新役員による理事会を開催する旨、発言があった。

山崎会長から、新役員による理事会を開催した旨、報告があった。平成 19・20 年度次期役員について寄付行為 18 条 2 項より、次期会長は山崎達光、次期副会長は河野博文、秋山雄治、古川保夫の 3 名。また、専務理事、常務理事は寄付行為 18 条 3 項に基づき理事会の互選で、専務理事に前田彰一、常務理事に青山篤、児玉萬平を選出した旨、発言があった。

#### **その他（加盟・特別加盟団体報告、質疑応答・意見交換）**

- 1 ) 加盟団体、特別加盟団体より活動報告があった。
- 2 ) 三重県ヨット連盟の横田評議員から資料に基づき、現状の三重県下の高校ヨット部は 5 校が廃部となっている。このような状況では、財源の確保ならびに指導員等の人材確保に不安を感じざるを得ない。普及に対して具体策について検討していただきたいとの発言があった。
- 3 ) 兵庫県セーリング連盟の川上評議員から、兵庫国体終了の御礼の挨拶があった。

- 4) 日本レーザー協会の木村評議員から資料に基づき、レーザー級の国体採用について提案があった。若いセーラーに国際舞台への可能性を与えることで、ジュニア・ユースからシニアまで成長途中でブランクをつくることなく、競技力を向上していただくことを念頭に、国民体育大会少年男女および成年シングルハンダーにレーザー・レーザーラジアル級を採用していただくことをご理解いただきたいとの発言があった。
- 5) 日本テーパー協会の金子評議員から、2009年ワールドは日本開催するとの発言があった。
- 6) 大阪北港ヨットクラブの藤本氏から、メルボルン大阪ダブルハンドヨットレースについて、3月25日スタート、日本からの参加4艇との発言があった。
- 7) 愛知県ヨット連盟の森評議員から、葉山港において海の甲子園を開催するとの発言があった。また、メンバーIT化に伴い、メンバー証発行の遅滞や年度シール発送の不備などで、加盟・特別加盟団体事務局の事務作業が煩雑になっている。システムを見直せないかとの提案があった。

以上、平成18年度第2回評議員会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成19年3月18日

議 長 鈴 木 修

議事録署名人 庄 司 一 夫

議事録署名人 妹 尾 達 樹